

令和5年度 岩手県立大野高等学校教職員 働き方改革アクションプラン

～「持続可能」な働き方を目指して～

大野高等学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現 状

- ・ 少ない教職員数で分担し、各自が多様な業務に取り組んでおり、負担を感じている教職員が少なくない。
- ・ 特定の時期に複数の業務が重なり、個人に負担が向かう傾向がある。
- ・ 時間外在校時感が月100時間以上の者はゼロであるが、年360時間超(週休日の部活動指導従事を除く)は2名である。
- ・ 前年度年次休暇取得率58%。

2 目標・目指す姿

- <目 標>
- 時間外勤務が月100時間以上に該当する教職員→ゼロ継続
 - 時間外勤務(週休日の部活動従事時間を除く)年360時間超の教職員→ゼロ
 - 年次休暇取得率→70%以上
- <目指す姿>
- ・ お互いの業務を理解し、ゆとりと思いやりを持って同僚や生徒に接している。
 - ・ お互いの業務をサポートし合い、気軽に休暇を取得できる雰囲気が作られている。
 - ・ ワークライフバランスをとりながら、教職員本来の業務に専念できる。

3 取組内容

○ 教職員の健康管理

- ・ 休暇を取りやすくするために、部活動顧問を複数配置し、校務分掌の見直しを進めます。
- ・ 早期退庁及び積極的な年次休暇等の取得をしやすいよう、管理職は会議設定や運営の効率化を図ります。
- ・ 開催規定人数に関わらず、衛生委員会を実施し、健康維持への意識を高めます。

○ 学校における業務改善の推進

- ・ 費用対効果、時間対効果を考えた業務のスクラップ&ビルドに取り組めます。安易にコロナ禍前に戻さない。
- ・ ICTを活用し、ペーパーレス化や会議等における集合形式の見直しを行います。
- ・ 部活動指導方針に基づき、適正な部活動時間を徹底するなど、部活動指導の負担軽減を図ります。
- ・ 外部講師、総探コーディネーター等を積極的に活用し、生徒への指導等への負担軽減を図ります。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- ・ 管理職、主任間で業務内容、進捗状況を確認し、お互いに業務の「見える化」を進めます。
- ・ 各業務に複数の担当者を配置できるよう、校務分掌の見直しを進めます。
- ・ 少ない職員数では手が回りにくい公舎外環境整備等を、PTAや同窓会に協力を求めます。

令和5年5月19日 岩手県立大野高等学校長 千葉美春

(参考)「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」(抜粋)

【策定趣旨】

- 働き方改革の実現により、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの目標】

目標1 県立学校の教員の時間外在校等時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者をゼロにする。
- | | | |
|--------------------|-------|-----|
| ・ 令和3年度実績 | 県立学校計 | 71名 |
| ・ 令和4年度実績(第3四半期まで) | 県立学校計 | 21名 |

- (2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を除く。)が月45時間超、年360時間超の者を下記のとおり縮減する。

時間外 在校等時間	取組期間 令和5(2023)年度
月45時間超	ゼロ
年360時間超	

目標2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上

令和5年度において、アンケート調査に基づく肯定的実感が令和3年度の実施結果から向上することを目指す。